ロッキーのHP→ www.liverocky.com

PICKIN' SINGIN' Rocky Top GINZA

かわら版

第122号

2011 2.15 発刊

Yeah! マネージャー No81

ロッキー怪現象の巻　作 チーフ井上

拝啓 February

春まだ遠しの2月です。しかし僕にとって誕生月なのでなんとなく特別な意味を感じる2月だ。寒い44年前の朝、僕はこの世に生を受けた。なので寒い朝は始まりの時なのだ。元気に飛び出していくぞー！

マスター田口の不幸デラックスコーナー

ハイロンサム正月の巻…一人者のマスター田口だが、正月くらいは母親と過ごそうと今までは山形在住の母親のもとに行っていた。その母親が昨年から東京に引っ越してきて、いとこの家に住んでいる。そのいとこの家は田口家一族が正月に集結する大きな家らしい。マスター田口は今年はスペシャルに家を訪ねようと「正月行きます。よろしくね😊」というメールを送ったのだが、なんとも無情な返信が返ってきたのだ。「子供の家族が来るので泊まれる場所もないし、今年は来ないということでいいですか？」つまりは「来るな！」と言いたいのを回りくどく気を使って言った結果より一層相手を傷つける文章となった例だ。マスター田口は人生初のたった一人の正月をハイロンサムに過ごしたのだ。

正月明けはその経験をスタレー丸山に訴えまくりのマスターだった。

スタレー丸山情報

親知らずに悩まされたスタレー丸山だが年末ついに手術で抜くこととなった。近所の歯科医院に特別派遣された外科の女医にやってもらった。「麻酔するのも大丈夫ですよ」と言いつつも「痛かったら言ってください」などと言われ、不安におびえるスタレーだったが無事親知らずは抜きとられた。1週間の禁酒を命じられ、せっかくの正月にお酒が飲めないという事態になった。我慢、我慢と乗り切り結局1ヶ月近くの禁酒の後に飲んだビールは全身にしみわたったが、すぐに眠くなってしまったらしい。それ以来どうも飲むと眠くなる傾向にあるらしく、簡単に言うと弱くなってるということだ。スタレーも37才、青春は終わった。

グラミー賞惜しかった…

日の当たらニュースに元しいブルーグラス界にスマに「おお！」とうなる素晴らしいニュースが飛びこんで来た。今年のグラミー賞のオールドタイム部門にムーンシャイナーというブルーグラス専門誌の発行や宝塚歌劇主催で知られるB.O.Mサービスのレーベル、レッドクレイ・レコードから発表されたMemories Of Johnというジョンハートフォードのトリビュートアルバムがノミネートされたのだ！全国的なメディアにも取り上げられ、めざましTVという番組にB.O.Mの渡辺敦雄さんが出演しバンジョーを弾いたりして、日本中にブルーグラスという音楽をPRする最高のチャンスが訪れた。しかし…3/4グラミー賞発表をドキドキしながら結果を待っていたのだが、大賞はキャロライン・コレットドロップスという黒人のオールドタイムバンドのCDが受賞ということでした。でもたまには日に当たるというのもいいもんです(笑)。ジョンハートフォードのスピリッツを忘れず、ホットな音を発信し続けましょう！

チーフ井上の音楽よもやま話 ⑤

…人生で出会った音楽、それはまさに縁である。その縁の糸をたどり、いかにして今の人生につながっているか？というよもやま話を書き綴りたいと思います。

吉田拓郎及Y.M.Oショック…ついに僕の音楽の核心にせまってくる回となりました。『ザ・ベストテン』が最高の音楽番組だった僕だがある日人生を変えられるアーティストとの出会いが訪れる。それは1979年が1980年になる大晦日の出来事だった。その頃、僕の憧れの一つにオールナイトニッポンという深夜放送があった。小学生の僕はどうしても時まで起きていられなかったのです。12:30くらいまでは大丈夫なのだが、12:30から始まる大石吾郎のコッキーポップという番組でどうしても寝てしまうので、さわやか系ポップと眠気をさそう語り口ですやすやと夢の中に入ってしまう…だが、1979年の12月31日、ついにチャンスが来た。当時僕は剣道少年で、その時年越しけい古というのがあった。夜10時くらいから12時前までけい古して「黙想ー！」という掛け声で黙想中にラジオで除夜の鐘を聞き「やめー！」の合図で黙想を解き師匠に「ありがとうございました！」とみんなで頭を下げる。その後マルちゃん赤いきつねを年越そば代わりに食べるといったものだった。家に帰るとちょうど時間「ついに聴けるぜ！オールナイトニッポン！」喜びいさんで1242にダイヤルを合わせる。その時確か70年代音楽総決算みたいな企画をやってて誰だったか忘れたがその時のDJが「70年代は吉田拓郎で始まり吉田拓郎で終わりましたね。では今年の武道館ライブから落陽！」ギター1本弾き語りで「落陽」という歌を初めて聞いた。衝撃が走った！何かが俺の魂を突き抜けた！「なんだこれは？吉田拓郎って誰だ！？」その頃好きになったゴダイゴやソイストとは決定的に何かが違っていた。おそらく自分勝手で自由で大人っぽい世界が広がっていた。それ以来、僕の脳は「よしだたくろう」というワードが常に占めるようになる。ところがもう一つ真逆と言える衝撃の音楽があった。イエローマジックオーケストラY.M.Oだ。初めて聞いた時は「いつ歌が始まるんだ？あれ終わっちゃった、歌がない？」と呆然としたがやがて鳥肌が立つようになった「新しい時代が始まった！」と確信した。当時はやり出したインベーダーゲームと共に初めて聴くコンピューターミュージックというアカデミックなイメージに魅了された。そして人生初、LPを買おう！と決意したのだが、当時僕のおこづかいは月1000円。3ヶ月貯めてようやく買えるわけだ。「どちらにしようかな？吉田拓郎かYMOか？」親友の河野君に「迷ってるんだけど、どちらがいいと思う？」と聞くと井上の感じはどちらかというと吉田拓郎じゃない？」と言われ、その言葉に従い買ったのがロサンゼルスレコーディングのシュガーラフ。そこから本当の意味での音楽人生が始まったのだ

Pick Up Live!

ドン・リグスビー、マーク・シャッツ＆マロ川端Japanツアー2011

3/5(土) Rocky Top にて昼夜2公演

アメリカ在住のブルーグラッサー**マロ川端**(Vo&G)がケンタッキーのテナーシンガーでカリスマプレイヤーの**ドン・リグスビー**(Vo&マンドリン)とベーシストでクロウハンマーバンジョー&クログダンスの名手**マーク・シャッツ**(Bass)バンジョーを率いて来日する。ドンの流麗なケンタッキー産テナーボイスはアメリカンミュージックの根っ子に触れる感動があるだろう。そしてマークのエンターテイメントも楽しめるはず。クログダンスをみんなで踊ろう！Rockの初の昼夜2公演です。

昼の部 PM2:00〜PM5:00
夜の部 PM7:30〜PM10:30
チャージ 予約した方¥4500 当日¥5000
予約受付中!!!

そしてゲストに売れっ子の若手**斉藤ジョニー**も出るぞー！